慶應醫學部新聞

發行所
慶大醫學部新聞部
新宿區信濃町18
發行人　草間良男
編輯人　小林文彦
月刊　昭和24年10月10日發行

三鷹より再び四谷へ

二年内に基礎醫學教室歸る

戦時疎開以来の懸の事情によ[illegible]ることもあるが、然したがつて基礎醫學の分散のため研究[illegible]の連絡はやはりすれば遠隔[illegible]不便をかこつたし知識交換に[illegible]ともたび重なる戦禍を蒙り[illegible]足による建設費の捻出は現に[illegible]金額物の拡張を招くのみさ[illegible]醫療事業部の事業にも悪影[illegible]れずにいたが今度基礎醫學[illegible]基礎醫學部に復帰することに[illegible]めたには約二年を要する見[illegible]込みである。戦後日本を放[illegible]棄することは基礎醫學の発達[illegible]への致命を失うことであり今[illegible]後の醫學界の発展を期すれば[illegible]

衛生草間良男氏

六日　羽田出發渡米す

[illegible]氏は醫學[illegible]醫學の権威であるが、[illegible]中、醫學[illegible]氏の[illegible]人、醫學[illegible]ての[illegible]ても[illegible]アメリカに向つた。氏はサンフランシスコに三日間在滞し現地のアメリカンデモクラシイの現況を調査するものと大きな期待をよせられている。

氏は[illegible]出発するにあたりその抱負を[illegible]いと述べている。向うの教授[illegible]を待んで教えしいとも云はれたし、向うの醫學[illegible]と連絡する際にも相れた醫學の[illegible]する際にも相れた醫學の[illegible]の[illegible]現米中は醫学へ一本の[illegible]よこさんので心配をかけたが今度は必ず帰りする。向うの[illegible]懐しい人に会へるのは楽しいが、醫学を[illegible]するのは[illegible]いさかが「まみ」いがしつかりやつてもらいたい」なお[illegible]教授からの第一回通信はやがて届くことと思はれるので次号に掲載される[illegible]

[illegible]醫學部[illegible]氏は[illegible]月六日午後[illegible]十一時半、パン・アメ[illegible]リカ機で羽田を出発、[illegible]は四谷へ復帰することになるが四谷の受入れ態度などのためにはまだ二年を要する見込みである。戦後日本を放棄することは醫學界の発展[illegible]を[illegible]

[illegible]

來年度　インターン決定す

昭和[illegible]度の「インターン」採用が新[illegible]にて[illegible]病院に[illegible]院に[illegible]ターンをめぐつての問題は無[illegible]内の[illegible]内の[illegible]現下の[illegible]はより[illegible]機会[illegible]も学校の[illegible]まで[illegible]

[illegible]のことであり、それに[illegible]のほどの[illegible]院に[illegible]ターンをめぐつての問題は無[illegible]その結果は[illegible]より[illegible]の[illegible]の米やつと[illegible]の面[illegible]日を[illegible]なお[illegible]るので次[illegible]

[illegible]金の[illegible]生活上に、[illegible]が[illegible]てと[illegible]る会日本人と同様に、この一[illegible]収容されたような[illegible]ある。

學校新聞の使命

時評

學校新聞の使命はニュースを通して大學及[illegible]無知蒙昧をはかり大學の[illegible]生徒[illegible]ある。

私たちは正しい[illegible]なぜにはどうしても自分の[illegible]ろうが本[illegible]ありむしろ[illegible]ろうはすぎ[illegible]心の[illegible]はないのである。

[illegible]

[illegible]

[illegible]